

地域支援だより

きらりNet




令和5年3月2日
第130号
秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部

自立活動の評価 ～ 多面的な評価を ～

年度末の学習評価は、「児童生徒の成長を振り返る」「教師自身の指導を見直す」だけでなく、「来年度への引き継ぎ」の役目も果たす大事な評価です。どのような視点で評価すればよいのか、例を挙げて紹介します。

なお、年度末の評価を受けて、来年度の目標を設定しますが、No.103、No.113、No.123で取り上げていますのでご一読ください。

<例：Aさんの目標>
両手を使って操作する活動において、左手で支えたり、左手を添えたりする。



Aさんは上肢に軽い麻痺があるため、多くの活動で大人の支援を受けているという実態です。自立活動の目標を立てるに当たっては、「ここを改善・克服すればもっと学びやすくなるだろう」と仮説を立て、課題を絞りました。（目標の根拠が大事です！）



<目標を立てるための仮説（背景）>
両手を使って操作する活動（紙を折る、糊を塗る等）が苦手。右手（利き手）はうまく動かせるが、左手（補助手）を使う習慣がない。**左手で物を支えたり、左手を物に添えたりする動きを身に付ければ、様々な学習での活動や作業において、一人でできることが増えるだろう。**



<p>◆到達状況を具体的に 例：タオルたたみの活動で（場面）、左手をタオルの左端に添えることで（方法）、一人で端をきれいにそろえてたたむことができた。（到達状況）</p>	<p>◆各教科と関連付けて →各教科の学習場面に生かしていたか 例：プリントを書くときに、左手を添えることでずれることがなくなった。姿勢も安定して文字が以前よりも整った。</p>
<p>◆自己評価で内面の気づきを →指導前と指導後動画を比較する等して、変容を自分自身で確認し、自覚する。 例：左手を使ったときの方が使わないときよりきれいに仕上がっていた。他の場面でも意識して使ってみようと思う。</p>	<p>◆保護者と情報共有して →学んだことを家庭でも実行するために 例：これまでは「できない」と思って見逃していたけれど、食器に手を添える、服をきれいにたたむ等、家庭でも取り組んでみようと思う。</p>



「評価が書きにくい」と感じる場合は、具体的で観察可能な目標設定だったのか、また、自立活動の時間における目標だけの評価で終わっていないかを、是非見直してみましよう。来年度の改善につながります。
（文責：藤原恵理子）

秋田工業高校メカクラブと連携した教材開発とその活用

〈高等部：作業学習〉

本校高等部エコグリーン班で行っている「かおり袋作り」の作業には、ラベンダーのつぼみ取りやふるい掛け、ミキサー掛け、袋詰めなどの工程があります。つぼみ取り作業を担当する A さんは、手指の可動範囲が狭く指の力が弱いものの、集中力のある生徒で、とても質の高い作業を行っています。そんな作業学習が大好きな A さんが、ある日、友達がやっている作業を見ながら「先生、私もミキサー掛けをやってみたい」と自分の思いを話してくれました。やってみたい気持ちがあっても、実は我慢していたことに気がきました。

生徒の「やりたいけどできない」という状況を改善したく、秋田工業高校メカクラブに依頼し、生徒が自分の力でミキサーを操作できるスイッチを作成していただきました。

できたスイッチは特定の場所を指先で触るだけで、スイッチのオンオフを切り替えることができ、スイッチから指が離れるとミキサーが止まるようになっています。**自分の意志で自由に操作できることに喜びを感じ、自分でできる活動が増えたこと**にとても意欲が高まりました。(文責：加藤俊之)



教育専門監のコーナー

《望む未来の実現のために》

【目標設定の三つの観点】

- 子どもにとってより**豊かな生活の展開**につながる目標を検討する
- 具体的な行動やスキルを掲げる **SMART**
 - **S**pecific (具体的な)
 - **M**easurable (測定可能な)
 - **A**chievable (達成可能な)
 - **R**elevant (意味のある)
 - **T**imed (時限的な)

○そのために必要な**支援**や**場面設定**を記述する

【具体的な実践に向けて目標を振り返る視点】

- 子どもにとってより**豊かな生活の展開**につながる目標ですか。
- その目標には子どもが学習すべき**具体的な行動やスキル**が明確に記述されていますか。
- その目標に取り組むための**教育活動や手だて**は適切に考慮されていますか。
- その目標は子どもが**現在もっている力や状態**を適切に踏まえていますか。
- 目標が**スモールステップ**で**達成**できるように考慮されていますか。
- 評価の観点**は明確に示されていますか。

参考：手厚い支援を必要としている子どものための情報パッケージ「ぱれっと (PALETTE)」(シアース社)

『自らの意思で足を踏み出す』

自分に適した道具を使い、自らの意思で作業に向かい、工程を遂行する中で、各自が効率的に進めたり、不具合に対処したり、仕上がりの善し悪しを判断したりしていく高等部作業学習の実践。大切にしているのは、「～ができない」ではなく、環境を整えることで「～ができる」に変えていく「できる」状況作り。生徒は担当する工程の中で、“自分は何ができて何が難しいのか”“どうすればできるのか”“こうしてみよう”と思考し、試行しながら、様々な工夫を獲得していきます。各自が『分かる、できる、自分で取り組む』中で役割と責任を果たす連携・協働による作業。その中で学びを意味付け、価値付けしながら、豊かな生活の展開に向け自らの可能性を見いだしていきます。生徒一人一人の望む未来の実現のために、自分の意思で進み、考え、判断し、結果に責任をもつ過程で、各自の主体性が育まれていきます。

〈文責：二階堂 悟〉



教頭 近藤 郁 地域支援部主任 大友 明希子

住所：〒010-1409 秋田市南ケ丘1丁目1番1号

E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018(889)8573 FAX：018(889)8575



「きらり Net」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>